

平成28年度 第5回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会  
発達支援部会会議録

日 時 平成29年2月14日（火）午後4時30分から午後5時30分

場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階研修室

出席者 菅谷幸乃部会長、平沢真哉副部会長、福田弘子部会員、土屋知子部会員、  
星山伸夫部会員、林恵利部会員（鎌ヶ谷市健康増進課主任保健師）、  
佐藤佳子部会員（鎌ヶ谷市こども発達センター分室主幹）、  
岩田友理子部会員（鎌ヶ谷市障がい福祉課主任保健師）

欠席者 野中幹子（鎌ヶ谷市学校教育課副主幹）松村幸江部会員、須鎌ひろみ部会員

事務局 （障がい福祉課） 斉藤実障がい福祉課長、藤嶋晶子課長補佐、中村浩主任主事  
（もくせい園） 三浦幸嗣

関係者 オブザーバー 笠原知容氏

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・式次第
- ・サポートファイル説明書レイアウト案
- ・鎌ヶ谷市基幹相談支援センターと地域生活支援拠点等整備事業についての資料

<本日の傍聴人及び会議の出席状況について>

事務局より、欠席者について、出席者数が会議開催の定足数である過半数を満たしていること及び傍聴者が0名であることを報告した。

<平沢副部会長よりオブザーバーの紹介>

本日出席をお願いした笠原氏は、白井市のサポートファイルを活用したことで、お子さんの療育手帳の取得や、障がい福祉サービスにつながった経験をお持ちである。本日は、サポートファイルを実際に使う親の視点からのご意見をいただけるのではないかと考え、出席を依頼した。

## 1. 議題

「サポートファイル説明文（修正版）の検討」

部会長

今年度（平成28年度）は、サポートファイルの普及・活用というテーマで話し合ってきた。そのなかで、サポートファイルの表紙の次の一番初めに、挟み込める分かりやすい説明文があればいいということになり、今回は事務局で説明文の案を作成し検討を行った。本日は、前回会議での意見を反映させた修正案を基に検討していきたい。

### （1）修正版の主な修正箇所の説明

事務局

【表面】

- ・ 家族を取り巻く輪の向きと矢印を下向きから上向きに変更した。それに伴って、「ライフステージをつないでいきます」のイメージ図を輪の下部から上部に移動させた。
- ・ また、イメージ図の内容も末尾の「大学・就労など」となっていた文言を「進学・就労先など」に修正し、進学の流れと並行する流れとして、「福祉サービス・日中活動の場」も併記した。
- ・ 関係機関の項目とイラストのうち「通所施設」を「幼稚園、保育園」と「福祉サービス」に分け「福祉サービス」についてはイラストを追加した。

【裏面】

- ・ 記入例の「☆お子さんの性格を示していると感じたエピソードがあれば書きましょう」の欄に、家族以外の視点からのエピソード及び、その記述のポイントを示す吹き出しを追加した。

### （2）修正版についての意見

部会員

表面上部の文章の中に、「学校の先生、お医者さんなどご本人を見守っていただく方々にその時々々の情報を書き込んでいただき」とあるが、これを保護者が見た時に全

部誰かが書き込んでくれると思うってしまうかもしれない。サポートファイルの基本は保護者が子どもの成長を記録していくものなので、「書き込んでいただく」のではなく、「情報を提供していただく」などという表現の方がよいのではないか。サポートファイルは、導入している白井市や我孫子市に聞いても基本的に保護者が記録していくものという位置付けになっている。

部会員

修正前に比べて修正後は肯定的なイメージになっていてよい。先ほどの文章の表現については、サポートファイルは「保護者の方が、学校の先生やお医者さんなどから得た情報を記録することで関係機関と情報を共有することにつながり、ライフステージに役立つ」というような表現にすれば、整合性を持たせられるのではないか。記入例のところの、こういった「エピソードは貴重な情報になります」というポイントが書いてあるのはよいと思う。「家庭での様子」のところでも、もう一つぐらいこういうポイントを付け加えられればさらによい。

オブザーバー

絵で説明されると、大変わかりやすい。個人的なエピソードになってしまうが、サポートファイルを持っていたことで、療育手帳取得の際に児童相談所の判定で「この情報があれば手帳は通りますね」と言われた経験がある。説明はわかり易いほどよいと思うので、こういったものは、できるだけ早く多くの人の手に渡るようにして欲しい。

部会員

家族を取り巻く輪が上向きに修正されたのはよい。記入例のところ、例が一つではなくもう少しあった方がよいと思う。サポートファイルを記入していくと、手帳や障害年金の申請など将来的に役に立つというところを、もっと具体的にアピールできればよいと思う。

部会長

今いただいた意見を基に再度修正したものを発達支援部会案として自立支援協議会に提案したい。修正については、事務局に一任することでもいいか。

部会員

(異議なし)

### (3) サポートファイルの記入の依頼があった場合の対応

事務局

サポートファイルの内容には子どもの成長を振り返って書く部分もあり、思い出して書くのは大変だったという意見もある。サポートファイルを手にする時期にもよると思うが、例えば以前利用していたお子さんの保護者から、その時の様子を書いてほしいという依頼があった場合は、どのような対応になるのか。

部会員

健康増進課では、0歳児で対象が年間800人。カルテの保存年限が3歳児検診終了時から5年となっている。情報開示にあたっては手続きも必要になるし、書いて欲しいと依頼されても現実的には対応は難しいと思う。

部会員

資料には保存年限があるし、職員も入れ替わりがある。そういった依頼があれば、分かる範囲で書くことになると思うが、何もなければ書けない。

部会員

カルテからある程度は書くことはできると思うが、情報開示にあたっては、親からの申し出でも、家庭の問題がある場合など、いろいろなケースがあるので、関わっている全ての人のコンセンサスがなくて開示することは難しい。情報の開示は特に慎重に対応しなくてはいけないと考えている。

部会員

関係機関であまり気軽に書いてもらえると、病院や学校、事業所に頼り切ってしまう保護者が出てきてしまう。やはり、聞き取った内容を保護者が書くというのが原則になるのだろうと思う。

オブザーバー

サービス利用計画書や、学校から出る計画書などには子どもの様子が細かく書かれている。それをサポートファイルに挟み込むようにすれば、改めて書いてもらう必要はないと思う。

部会員

手帳取得であれば、母子手帳からある程度の情報は得ることができる。サポートファイルは小学校以降が重要になってくると思う。30代や50代になってから手帳を申請する人もいる。そういう場合は成績表すらないので、落ち着きがなかったとか、そういう記載があるだけでも手掛かりになる。

#### (4) 来年度（平成29年度）のテーマについて

部会長

来年度もサポートファイルをテーマとしていくのか、また別のテーマ設定をしていくのか方向性だけでも決めたいがどうか。

部会員

今回検討した説明文の配付を行い、それが浸透するまで少し時間がかかると思う。状況の報告は必要だと思うが、少し様子を見る必要があるのではないかと。

事務局

来年度は、サポートファイルを取り扱うにしてもサブ的テーマとし、メインのテーマは別に設定するという方向で進めたいと思う。具体的なテーマについては、各部会員で少し考えてもらいたい。

事務局

来年度第1回の部会は、5月頃になると思う。テーマ案があれば事務局まで知らせてほしい。

#### (5) 鎌ヶ谷市基幹相談支援センターと地域生活支援拠点等整備事業についての報告

事務局より平成29年度中に鎌ヶ谷市基幹相談支援センターを開所する予定である

旨、及び地域生活支援拠点等整備事業も検討中であることを資料を基に報告した。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成29年3月29日

氏名 飯高 優子

氏名 山根 清孝